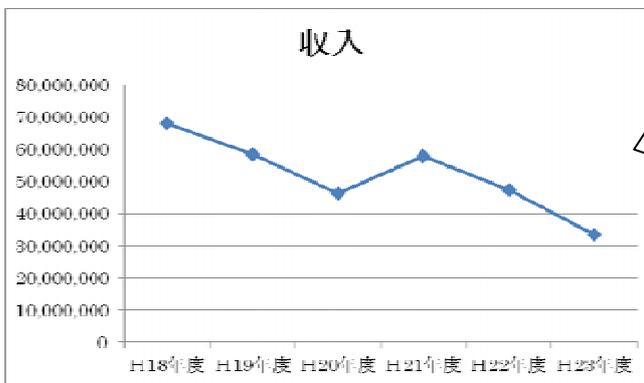




—東北生産性本部—

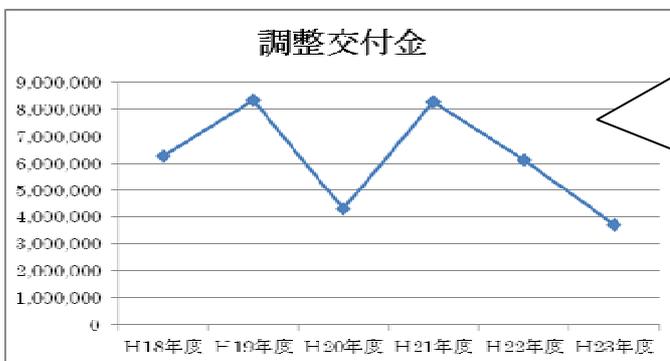
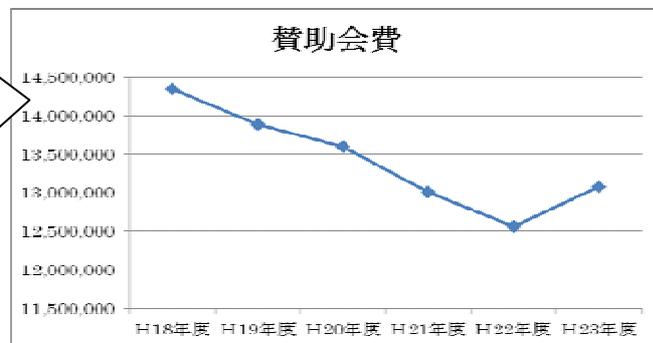
事業の見える化

< 収入面 >



特別事業・借入・繰越を除く本来事業の収入面における過去6年間の推移である。平成21年度は前年度大幅な赤字を計上、皆さまの支援を受けて一時回復したが、その後は震災の影響もあり低迷している。

固定費を半分程度賄う安定財源として大きな位置づけにある。しかしながら、平成22年度まで右肩下がり、賛助会員対策を講じていなかったのが大きな要因。平成23年度は震災の影響を受けながらも減少に歯止めを掛ける。

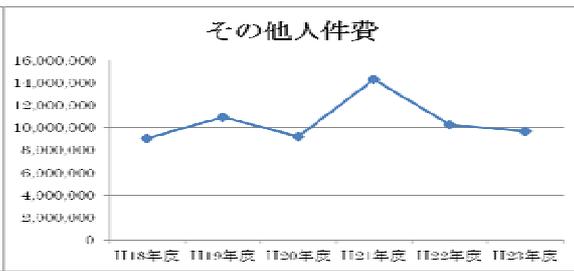
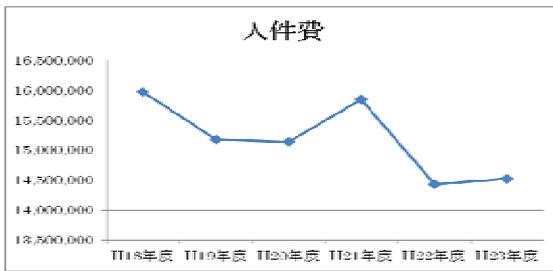


安定財源とすべき重要な位置づけにあるが、平成23年度は平成19年度の半分以下と、濃淡が大きく、不安定財源となっている。この要因は、各団体とも景気低迷の影響を受けていることにあるが、受託側として安定した委託費の確保が必要。

宮城県仙台市青葉区本町二丁目六番十二号 <http://www.t-productivity-ce.jp> HP 掲載中
 < 支出面 >

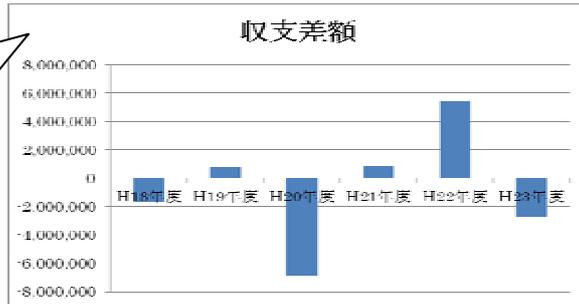


支出も収入と同様に右肩下りの傾向であるが、固定費である事務費(人件費・法定福利厚生費・賃借料・機器リース代・退職金積立等)の比率が高まっている。事務費の6割程度を占める人件費は右肩下りの横ばいである。



< 利益面 >

平成20年度に大幅赤字となり、借入で凌ぎ、その後、皆さまの支援を受けて単年度黒字、順調に軌道に乗るかと思われた最中、大震災で事業面に影響し、借入返済も重なり、平成23年度は赤字計上。



第一義 ~一枚めくれば、悩み多い決算~

当本部の平成23年度決算が纏まった。全体的には増収増益(総収入・繰越金比較)であるが、一般事業は赤字となった。当本部の事業会計には、宮城労働局の委託事業が含まれており、更には委託事業に伴う運転資金を借りていること、そして繰越金も大きいことから収入規模は大きくなっており、本来の一般事業の動向が分かりにくい状況にある。当本部の安定収入財源は賛助会費と調整交付金(4委託団体の事務委託費)であり、この安定財源で固定費(人件費を含めた事務費)を賄うことが出来れば、事業は安定する。しかしながら、近年は7割程度しか賄い切れず、3割程度を事業で稼ぐ必要がある。そこに借入金の返済が重なり、宮城労働局の委託事業に頼っている。平成24年度のふるさと八ローワーク支援事業は震災復興を優先する観点から未計画となり、当本部にとっても大きな痛手となった。従って本来事業の動向が明暗を分ける。当本部には四本の柱となる事業がある。仙台シンポジウム、一般セミナー、労使関係事業、講師派遣事業である。平成23年度は震災ショック、平成24年度は電力ショックで、先行きが不透明となっている。経費はほぼ横ばい、課題先送りであり、必要な手当のストップも限界がある。一枚めくれば、悩み多い決算となった。(記S・S)